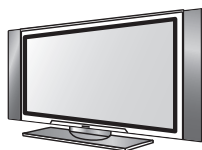
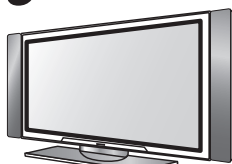
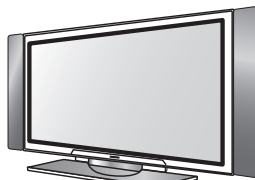
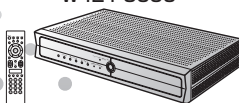
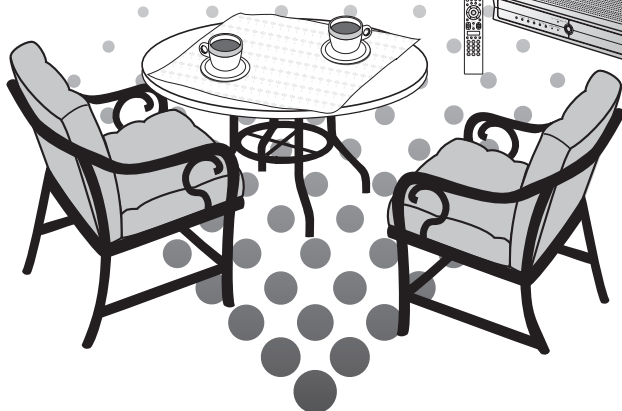
HITACHI

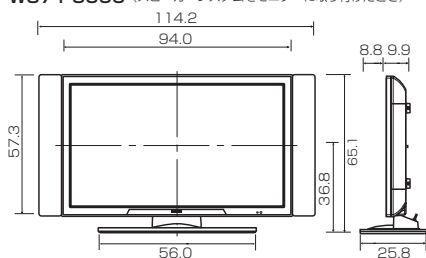
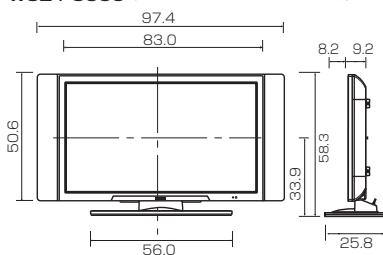
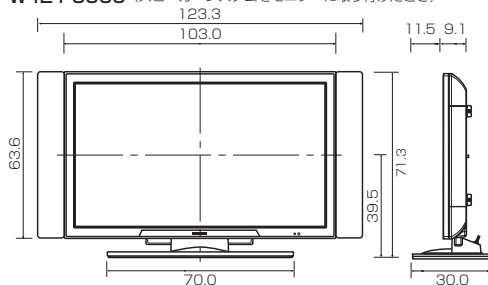
日立プラズマテレビモニター

形名
W32-P5000
W37-P5000
W42-P5000

取扱説明書

このたびは日立プラズマテレビをお求めいただき、まことにありがとうございました。
この説明書は、3モデルタイプの説明書となっています。各機種の仕様の相違については裏表紙をご覧ください。本文中のイラストは主として、W42-P5000で説明しています。
日立プラズマテレビは下記の構成になっています。本機は、必ず専用のAVCステーション(別売り)と接続してください。

	日立プラズマテレビ構成内容		
	プラズマテレビモニター部	スピーカーシステム	AVCステーション部
32形	W32-P5000	32SP5	AVC-H5000 AVC-5000 AVC-HW5000 AVC-HR5000
37形	W37-P5000	37SP5	
42形	W42-P5000	42SP5	

ご購入の際は、それぞれが別々の梱包となっております。ご確認願います。

最初に 「使用上のご注意」をお読みください。本体の取扱いは、この「取扱説明書」とAVCステーションに付属の「取扱説明書」をよくお読みになり、ご理解のうえ正しくご使用ください。
お読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

単位(cm)

寸法図 ……………… **2**

もくじ ……………… **2**

使用上のご注意 ……………… **3**

- 安全上のご注意 ……………… 3
- お守りください ……………… 8
- お知らせ ……………… 10
- 留意点 ……………… 11

付属品について ……………… **12**

各部のなまえ ……………… **13**

- W32-P5000 ……………… 13
- W37-P5000 ……………… 14
- W42-P5000 ……………… 15

モニター、AVCステーション、スピーカーシステムの接続 ……………… **16**

- W32-P5000のとき ……………… 16
- W37-P5000のとき ……………… 18
- W42-P5000のとき ……………… 20

据え付けについて ……………… **22**

- 転倒防止について ……………… 22
- 据え付けるときのご注意 ……………… 23

保証とアフターサービス ……………… **25**

お客様ご相談窓口 ……………… **26**

ご使用のまえにこの「使用上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

絵表示について　製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。

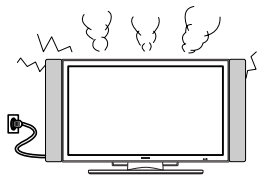
⚠ **警告**	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があります。
⚠ **注意**	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり物的損害を発生する可能性があります。

絵表示の意味

- 気をつけなければならない。「注意」を示します。
- 感電に気をつけなければならない。「感電注意」を示します。
- してはいけない。「禁止」を示します。
- 必ず行う。「強制」を示します。

安全上のご注意

⚠ 警告

■ 異常が発生したら、すぐに電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜くこと

異常、故障状態とは

●煙が出ている、へんな臭いや音がする
●画が乱れる・映らない、音がでない
●本機の内部に異物(水、金属など)が入ったなど

異常、故障状態のまま使用すると火災、感電の原因となります。

すぐに電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですので絶対におやめください。

●イラストはイメージであり、実際の商品とは形状が異なる場合があります。

設置をするとき

⚠警告

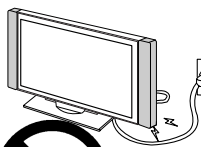
■ 不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた場所など不安定な場所に置かない。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となります。

■ 持ち運ぶときは衝撃を与えない、本機を落とさない

破損したまま使用すると、火災・感電・けがの原因となります。

●プラズマディスプレイパネルはガラスでできていますので、万一割れたりするとケガの原因となります。

■ 電源コードを本機の下敷にしない

コードに傷がついて火災・感電の原因となります。

⚠注意

■ 湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気が当たる場所に置かない

火災・感電の原因となることがあります。

●調理台や加湿器のそばなど。

■ キャスター（車）止めをする

テレビ台にキャスター（車）がついている場合は、キャスター止めをする。

テレビが動いたり、倒れたりするとけがの原因となることがあります。

■ 電源プラグをすぐに抜くことができるように本機を据え付ける

本機が異常や故障となったとき、電源プラグをコンセントに差し込んだままにしておくと火災・感電の原因となることがあります。

■ 電源プラグ、アンテナ線などの外部の接続線や転倒防止の処置をしたまま移動させない

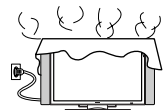
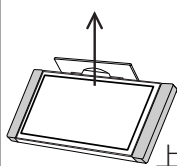
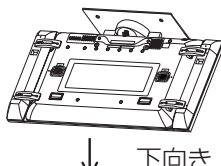
火災・感電・けがの原因となることがあります。

設置をするとき(つづき)

⚠注意

■ 通風孔をふさがない
火災の原因となることがあります。

通風孔を壁から10cm以上離して据えつけてください。(モニターを壁掛け設置する場合は除く)

特につぎのような使い方はしないでください。

●本機をあお向けや横倒し、逆さまにする。
●風通しの悪い狭い所に置く。
●じゅうたんや布団の上に置く。
●テーブルクロスなどを掛ける。

上向き

下向き

■ 転倒防止の処置を行う

モニターが倒れると、けがの原因となることがあります。

■ アンテナ工事には技術と経験が必要ですので販売店にご相談ください

●送配電線から離れた場所に設置する。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。
●特にBS、CS放送受信用アンテナは強風の影響を受けやすいので堅固に取りつける。

■ 本機を医療機器の近く(同部屋)には設置しないでください。

医療機器の誤作動の原因になる事があります。

■ アース線を必ず接地してください。

●電波障害や他機器への妨害、また、他機器からの妨害を受けない為にも、必ずアース線を接続してご使用ください。
●電波プラグアダプターを使用する場合、電源プラグのアース線は、アース端子に接続してください。コンセント端子に差し込むと、感電や火災の原因となります。

使用するとき

⚠警告

■ 本機の上に花びんなどを置かない

水ぬれ禁止

本機の内部に水などが入ると火災・感電の原因となります。

万一、入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。

●花びん、水槽、植木鉢、コップ、化粧品、薬品などを置かない。
●ペットが乗らない様、ご注意ください。

■ 異物を入れない

通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落し込んだりすると、火災・感電の原因となります。

万一、入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。
特にお子様にはご注意ください。

⚠警告

■ 本機に水をこぼしたり、ぬらしたりしない

水ぬれ禁止

火災・感電の原因となります。

●雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

■ 風呂場やシャワー室で使用しない

風呂場やシャワー室での使用禁止

火災・感電の原因となります。

■ 指定の電源電圧で使用する

本体に表示された電源電圧以外で使用すると火災・感電の原因となります。

■ 雷が鳴り出したら、アンテナ線や本機には触れない

接触禁止

感電の原因となります。

■ 電源プラグの刃や周辺に付着した埃や金属類を取り除く

そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

お手入れは、電源プラグを抜いてから乾いた布で行ってください。

■ 裏ぶたやカバーをはずさない、本機を改造しない

分解禁止

内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。

内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

■ 電源コードを傷つけない

火災・感電の原因となります。

傷ついたら、電源プラグを抜いて販売店に交換をご依頼ください。

●傷つける、破損させる、加工する、無理に曲げる、重いものをのせる、加熱する、引っ張るなどをしない。

■ 衝撃を与えない

万一、本機を落したり、キャビネットを破損した場合は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

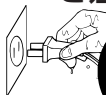
⚠注意

■ 電源プラグは根元まで確実に差し込む

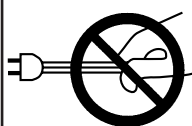
差し込みが不完全ですと発熱し火災の原因となることがあります。
また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。

■ 電源プラグは、ゆるみのあるコンセントに差し込まない

発熱して火災の原因となることがあります。
ゆるみのある場合は、販売店に交換をご依頼ください。

■ ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

ぬれ手禁止

感電の原因となることがあります。

■ 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない

電源コードを引っ張ると電源コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。

■ スイーベル回転範囲内に物を置いたり操作中に顔や手などを近づけない

ものが倒れて壊れたり、けがの原因となることがあります。

■ 本機に乗ったり、ぶら下がったりしない

倒れたり、こわれたりしてけがの原因となることがあります。
特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。

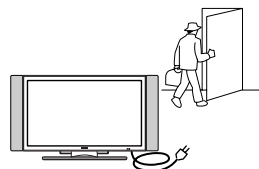
■ 本機の上に重いものを置かない

倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。

■ 間違った電池の使い方をしない(リモコンはAVCステーションの付属品です)

電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
特に、次の使い方はしない。

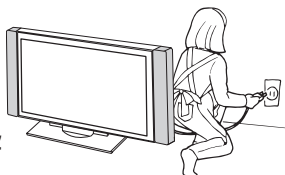
- 本機で指定されていない電池の使用
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用
- 本機の極性表示（プラスとマイナスの向き）とは逆向きに電池を使用

■ 長期間ご使用にならないときは必ず電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜くこと

お手入れするとき

⚠注意

■ **お手入れの際は、安全のため電源プラグを抜く**

電源プラグをコンセントから抜くこと

■ **年に一度は内部の掃除を販売店にご相談ください**

本機の内部にほこりがたまったまま長い間掃除をしないと、火災や故障の原因となることがあります。

特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。内部の掃除費用については販売店にご相談ください。

お守りください

■ **高温になるところに置かないでください**

キャビネットや部品に悪い影響を与えますのでご注意ください。

- 直射日光や熱器具(ストーブやエアコンの吹き出し口等)の近くなど。

■ **お部屋は適度の明るさで**

暗すぎる部屋は目を疲れさせるのでよくありません。

■ **長時間連続して画面を見ていると目が疲れます**

時々、画面から離れて目を休めてください。

■ **適度な音量で**

特に夜間での音量は小さい音でも通りやすいので、窓を閉めたりヘッドホンを利用したりして、隣り近所に対し十分の配慮をして、生活環境を守りましょう。

■ **本機および本機の破片、付属品を廃棄するときは**

本機および本機の破片、付属品などを廃棄する際は、必ず、販売店にご相談ください。

■ **搬送についてのご注意**

- 引越しや修理などで本機を運搬する場合は、本機用の梱包箱とクッション材をご使用ください。

■ **プラズマテレビモニターの設置について**

傾斜面や、平坦でない面、カーペットなどの柔らかい面、変形した面などへの設置をさけてください。リモコンによるスイーベル動作が不安定になる場合があります。

■ パネルのお手入れについて

●本機のパネル表面は、反射による映り込みや、赤外線カットの為の特殊コーティングが施されています。お手入れの際には、AVCステーションに付属のクリーニングクロスや柔らかい布（綿・ネル等）で軽く乾拭きしてください。

●化学ぞうきんやクリーナーは、その成分により、パネル表面の特殊コーティングがはがれたり、変色する恐れがありますので、ご使用にならないでください。

●硬い布で拭いたり、強く擦ったりしますと、パネル表面の特殊コーティングが傷付きますのでご注意ください。

●指紋など油脂類の汚れがひどい場合は、水で薄めた中性洗剤に柔らかい布をひたしよく絞ってからふき取り、乾いた柔らかい布で仕上げてください。

●スプレークリーナーは、パネル表面の特殊コーティングがはがれたり、内部に侵入し、故障の原因になる恐れがあるので、使用しないでください。

■ キャビネットのお手入れについて

●キャビネットの表面をベンジン、シンナーなどでふいたり、殺虫剤などの揮発性のものをかけたりしないでください。また、ゴムやビニール製品などを長時間接触したままにしないでください。
亀裂が生じたり、変質・塗料がはげるなどの原因となります。

●化学ぞうきんやクリーナー、ワックスは、含まれている成分により、キャビネットに亀裂が生じたり、変質の原因となりますのでご使用にならないでください。

●キャビネットや操作パネル部分の汚れは、AVCステーションに付属のクリーニングクロスや柔らかい布で軽くふき取ってください。汚れがひどいときには、水で薄めた中性洗剤に柔らかい布をひたしよく絞ってからふき取り、乾いた柔らかい布で仕上げてください。
特に、次の洗剤などは亀裂や変色、傷付きの原因となりますので使用しないでください。
・酸・アルカリ性洗剤、アルコール系洗剤、みがき粉、粉石鹸、OAクリーナー、カーワックス、ガラスクリーナー類など

お知らせ

■ 面欠点について
プラズマパネルは、精密度の高い技術で作られていますが、画面の一部に欠点（光らない点）や輝点（余計に光る点）が存在する場合があります。これは故障ではありません。

■ 残像について
静止画（画面表示、放送局側から送られる時刻表示など）やメニュー表示を短時間（約1分程度）表示し、映像内容が変わったときに前の静止画が残像として見えることがありますが、自然に回復します。故障ではありません。

■ パネル表面について
プラズマパネルは、パネルの内部で放電を起こすことにより映像を表示しています。そのため、パネルの表面温度が高くなる場合があります。
また、プラズマパネルは、微細加工したガラスです。パネルの前面には強化ガラス製のフィルターを取り付けていますが、ガラスが破損する恐れがありますので強い衝撃は与えないでください。

■ パネル駆動音について
電源を入れたときに、「ジー」というプラズマパネルの駆動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。

■ 輸送時について
本体を横倒しにして輸送した場合、パネルガラスが破損する、または面欠点が増加する可能性がありますので、横倒しでの輸送はしないでください。

■ ご覧になる位置は
画面のたての長さの3〜7倍を目安にした場所でご覧になれば、見やすくて疲れにくくなります。

■ 赤外線通信機器について
赤外線コードレスマイクや赤外線コードレスヘッドホンなどの通信機器は、通信障害により、使用できない場合があります。これは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

■ ラジオについて
本機の近くでラジオを使用しますと、ラジオの音声に雑音が入る場合があります。本機より離してご使用ください。

■ 本機の温度について
本機は、長時間使用したときなどに、上部が熱くなる場合があります。手で触れると熱く感じる場合もありますが、故障ではありません。また、熱で変形しやすいもの（オーディオテープ、ビデオテープなど）を上に置かないでください。

■ 焼き付きについて
静止画（画面表示、放送局から送られる時刻表示など）や、パソコンやゲーム機などの固定映像を長時間または繰り返し表示したり、画面のワイドモードをノーマルモードで長時間ご覧になると、プラズマパネルが焼き付く場合があります。
画面の焼き付きを避けるため、スクリーンセーバーの使用や、ワイドモードはノーマル以外のモードで使用することをおすすめします。
焼き付きが軽度のときは、目立たなくなることがありますが、一度起こった焼き付きは完全には消えません。
詳しくは 11 をご覧ください。

留意点

焼き付き（残像）とは？

プラズマテレビは、赤・緑・青色の微小蛍光灯が数百万個集まって出来た表示装置と言えます。蛍光灯を長い間ご使用になられると次第に暗くなってゆくのと同じように、プラズマテレビも次第に暗くなってゆきます。

プラズマテレビの一部分のみに映像を表示させ続けた場合、映像表示部分の微小蛍光灯のみが点灯し、映像が表示されていない部分の微小蛍光灯は消灯させておくのと同じような状態となりますので、映像のある部分の微小蛍光灯だけが次第に暗くなってゆきます。この結果、プラズマテレビ全ての微小蛍光灯を点灯させたときに、暗くなった微小蛍光灯部分が映像跡として見えるようになるものです。

どんな時に焼き付くの？

- ●常に［ワイド切換］メニュー設定を、ノーマル（4：3映像サイズ）に設定して、ご覧になられる場合。
- ●レターボックス（ビスタサイズや、シネスコサイズ）映像のように、上下や左右が黒帯となる映像表示の場合。
- ●文字放送やデータ放送、パソコンなどの静止（固定）映像表示の場合。
- ●ゲーム機やDVDなどの文字・図形映像を長時間表示される場合。
- ●チャンネル番号、時刻表示、放送局名などが、常に同じ場所に表示される映像表示の場合。

焼き付きを軽減するには？

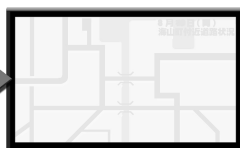
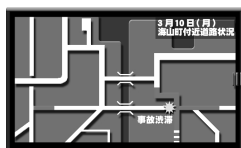
一度焼き付きが発生すると完全には回復しません。

以下を守り末長くご愛用くださいますようお願いします。

- ●ご覧になられる映像がプラズマテレビの画面いっぱいになるように、べんり機能の［ワイド切換］を調整されることをお奨めします。
  ※「ノーマル」設定でご使用される場合は、［他の設定］メニューにある［背景色］を［グレー］に設定してください。

例えば（焼き付き例）

常時、［ワイド切換］設定をノーマル（4：3映像サイズ）に設定してご使用になられると、ノーマル表示部分の焼き付きが生じます。

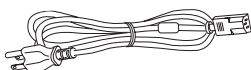
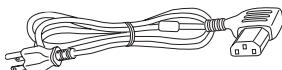
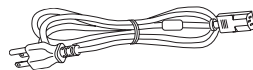
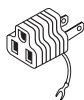
チャンネル番号を表示させ続けたり、**時刻表示、放送局名**が表示され続ける番組だけを長時間ご覧になられると、これらの焼き付きが生じます。

監視モニターのように、常に同じ静止映像を表示し続けると、その映像が焼き付きます。

- ●2画面やマルチ画面のままでの長時間のご使用は避けてください。
- ●本機を含む接続機器の操作メニューや操作画面を表示し続けることは避けてください。
- ●静止画像（部分静止画像含む）を表示し続けることは避けてください。
- ●画面の明るさ、黒レベルはセンター（0）に設定してご使用されることをお奨めします。

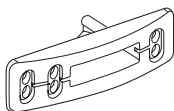
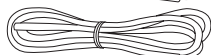
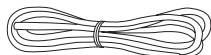
付属品をご確認ください。
万一不足しているものがあれば、販売店にご連絡ください。

■取扱説明書（本書）および保証書は、よくお読みになって内容をご理解の上、いつでも確認できるところへ大切に保管してください。

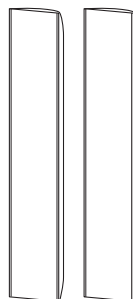
モニターの付属品

保証書 ·································1冊
取扱説明書(本書) ··················1冊

電源コード（黒色）（W32-P5000） 17

電源コード（黒色）（W37-P5000） 19

電源コード（黒色）（W42-P5000） 21

電源プラグアダプター 17 19 21

※お手入れ用のクリーニングクロスはAVCステーションに付属しています。

スピーカーシステムの付属品

スピーカーホルダー（4個） 16 18 20

スピーカー接続ケーブル（2本） 16 18 20

クッション（2本） 16 18 20

取付けネジ（8本） 16 18 20

スピーカーシステム（L）（R） 16 18 20

モニターW32-P5000

後面

16 スピーカー端子（右）

16 スピーカー端子（左）

24 専用スタンド接続ケーブル

サブウーハー出力

専用モニター入力

（専用ケーブル以外は接続しないで下さい）

電源

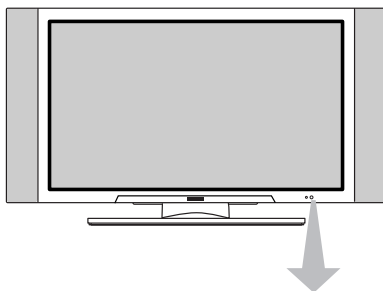
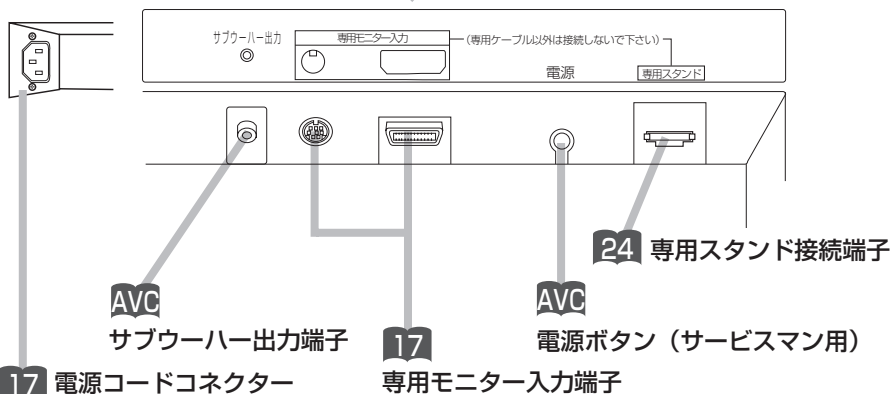
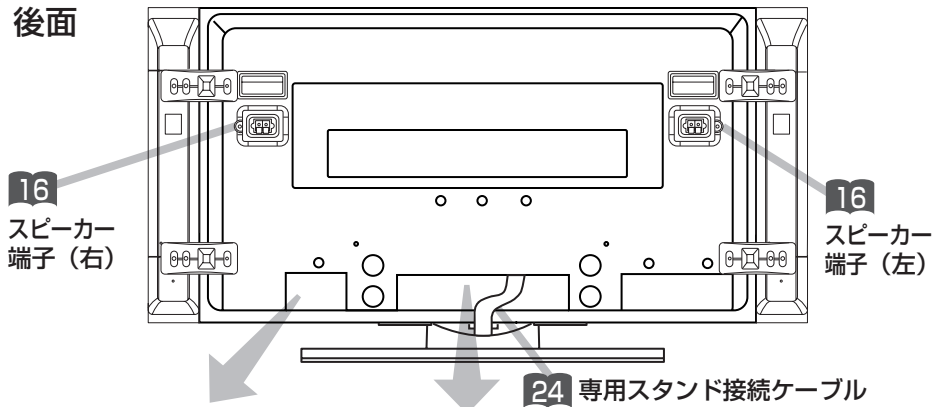
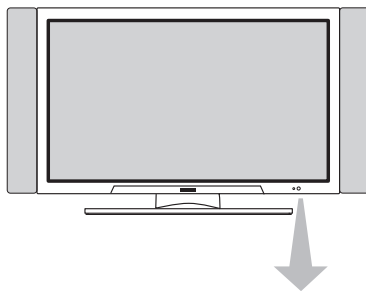
専用スタンド

24 専用スタンド接続端子

AVC サブウーハー出力端子

AVC 電源ボタン（サービスマン用）

17 専用モニター入力端子

17 電源コードコネクター

AVC は、AVCステーションの取扱説明書をご覧ください。

モニターW37-P5000

前面

後面

主電源ボタン AVC 18

スピーカー端子（右）

18 スピーカー端子（左）

24 専用スタンド接続ケーブル

スピーカー端子（右）
(6Ω12W)
－ ＋

サブウーハー出力

専用モニター入力

(専用ケーブル以外は接続しないで下さい)

電源

専用スタンド

スピーカー端子（左）
(6Ω12W)
－ ＋

19 電源コードコネクター

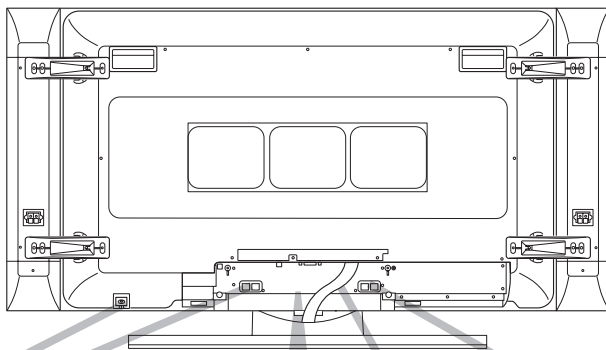
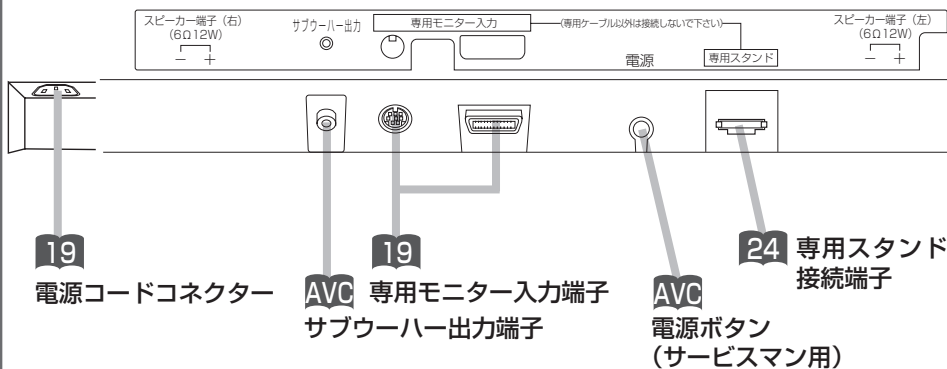
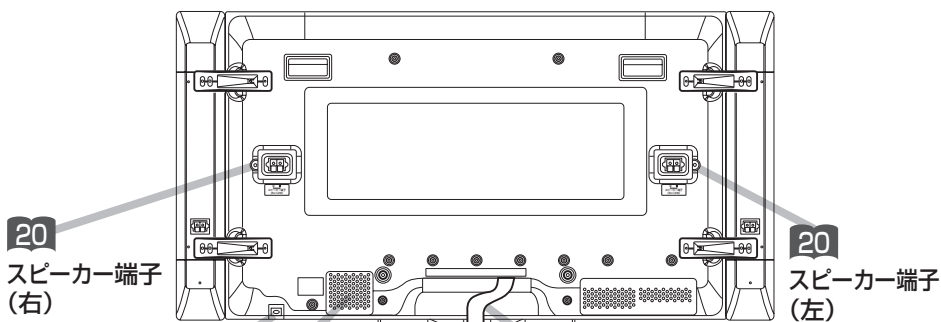
AVC サブウーハー出力端子

19 専用モニター入力端子

AVC 電源ボタン（サービスマン用）

24 専用スタンド接続端子

モニターW42-P5000

前面

後面

20 スピーカー端子（右）

20 スピーカー端子（左）

AVC 主電源ボタン

24 専用スタンド接続ケーブル

サブウーハー出力
専用モニター入力
(専用ケーブル以外は接続しないで下さい)
電源
専用スタンド

24 専用スタンド接続端子

AVC サブウーハー出力端子

AVC 電源ボタン（サービスマン用）

21 専用モニター入力端子

21 電源コードコネクター

W32-P5000のとき

**スピーカーシステムは、モニターに取り付けるかスピーカー専用台に取り付けて使用することができます。
スピーカーシステムは左右（L,R）共通ですので、スピーカーホルダーを取り付ける前は特に区別する必要はありません。**

⚠ 注意
スピーカー接続ケーブルは、必ずモニターの電源を切った状態（スタンバイ／受像ランプが消えてるかまたは、赤に点灯している状態）で接続／取り外しをしてください。

モニターにスピーカーシステムを取り付ける

1 スピーカーシステムにスピーカーホルダーを付ける

スピーカーホルダーの向きは（R）、（L）で左右逆になります。

お知らせ

クッションについて

本体とスピーカーの間にすき間が発生する場合があります。お気になる方は、付属のクッションをスピーカーシステムの側面に貼り付けてください。

2 スピーカーシステムをモニターに取り付ける

図のように、スピーカーシステムを取り付けて、スピーカーシステムとモニターの取り付け位置を調節して、ネジを確実に締めて固定してください。
（R）、（L）とも同様に取り付けてください。

3 スピーカーシステムにスピーカー接続ケーブルを取り付ける

4 モニターにスピーカー接続ケーブルを取り付ける

5 モニターに電源コードおよびAVCステーションとの接続ケーブルを接続する

専用接続ケーブルの大きいコネクターは、ゆるまないようにネジで止め、小さいコネクターは、奥までしっかり挿入してください。

⚠ 注意

スピーカー接続ケーブル以外の電源ケーブルや専用接続ケーブルは、必ずスタンドのクランプに確実に固定してください。モニターを左右に回転操作したとき、コネクターが抜けて発熱し火災の原因となったり、コネクター破損の原因となることがあります。

① 電源コードのコネクタープラグをモニター後面にある、電源コードコネクターに差し込む
② 電源プラグをコンセントに差し込む

●2つ穴タイプコンセントを使用の場合は付属の電源プラグアダプターをご使用ください。
電源プラグアダプターをご使用の場合は、電波妨害防止のため、必ずアース線を接続してください。
アース線の接続は、必ず電源プラグを電源に接続する前に行ってください。また、アース接続をはずす場合は必ず電源プラグをコンセントからとりはずしてから行ってください。

6 モニターとAVCステーションを接続する

専用スピーカースタンド（別売り）を使用する

1 スピーカーシステムに専用台を取り付ける

⚠ 注意

スピーカーを移動のときは、スピーカー専用台を持って移動してください。スピーカーを持って持ち運ぶと、取り付け部破損の原因になる場合があり、またスピーカー専用台が落下してけがの原因となることがあります。

2 スピーカー接続ケーブルやモニターとの接続は 3 ～ 6 と同様に行ってください

⚠ 注意

スピーカー接続ケーブルは、十分にたるませてください。

W37-P5000のとき

**スピーカーシステムは、モニターに取り付けるかスピーカー専用台に取り付けて使用することができます。
スピーカーシステムは左右（L,R）共通ですので、スピーカーホルダーを取り付ける前は特に区別する必要はありません。**

⚠ 注意

スピーカー接続ケーブルは、必ずモニターの電源を切った状態（スタンバイ／受像ランプが消えてるかまたは、赤に点灯している状態）で接続／取り外しをしてください。

モニターにスピーカーシステムを取り付ける

1 スピーカーシステムにスピーカーホルダーを付ける

スピーカーホルダーの向きは（R）、（L）で左右逆になります。

お知らせ

クッションについて

本体とスピーカーの間にすき間が発生する場合があります。お気になる方は、付属のクッションをスピーカーシステムの側面に貼り付けてください。

2 スピーカーシステムをモニターに取り付ける

図のように、スピーカーシステムを取り付けて、スピーカーシステムとモニターの取り付け位置を調節して、ネジを確実に締めて固定してください。
（R）、（L）とも同様に取り付けてください。

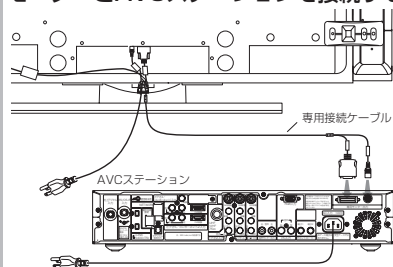
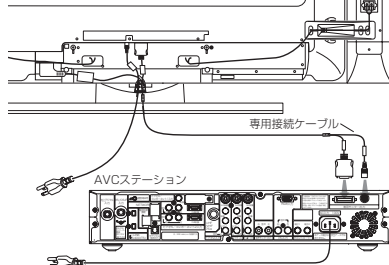
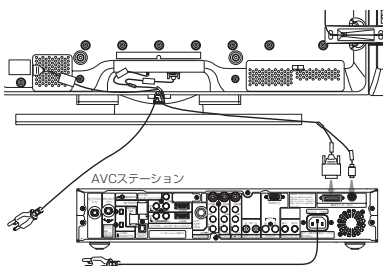
3 スピーカーシステムにスピーカー接続ケーブルを取り付ける

4 モニターにスピーカー接続ケーブルを取り付ける

5 モニターに電源コードおよびAVCステーションとの接続ケーブルを接続する

専用接続ケーブルの大きいコネクターは、ゆるまないようにネジで止め、小さいコネクターは、奥までしっかり挿入してください。

⚠ 注意
スピーカー接続ケーブル以外の電源ケーブルや専用接続ケーブルは、必ずスタンドのクランプに確実に固定してください。モニターを左右に回転操作したとき、コネクターが抜けて発熱し火災の原因となったり、コネクター破損の原因となることがあります。

6 モニターとAVCステーションを接続する

① **電源コードのコネクタープラグをモニター後面にある、電源コードコネクターに差し込む**
② **電源プラグをコンセントに差し込む**

● 2つ穴タイプコンセントを使用の場合は付属の電源プラグアダプターをご使用ください。
電源プラグアダプターをご使用の場合は、電波妨害防止のため、必ずアース線を接続してください。
アース線の接続は、必ず電源プラグを電源に接続する前に行ってください。また、アース接続をはずす場合は必ず電源プラグをコンセントからとりはずしてから行ってください。

専用スピーカースタンド（別売り）を使用する

1 スピーカーシステムに専用台を取り付ける

⚠ 注意
スピーカーを移動のときは、スピーカー専用台を持って移動してください。スピーカーを持って持ち運ぶと、取り付け部破損の原因になる場合があり、またスピーカー専用台が落下してけがの原因となることがあります。

2 スピーカー接続ケーブルやモニターとの接続は 3 ～ 6 と同様に行ってください

⚠ 注意
スピーカー接続ケーブルは、十分にたるませてください。

W42-P5000のとき

スピーカーシステムは、モニターに取り付けるかスピーカー専用台に取り付けて使用することができます。
スピーカーシステムは左右（L,R）共通ですので、スピーカーホルダーを取り付ける前は特に区別する必要はありません。

> ⚠ **注意**
> スピーカー接続ケーブルは、必ずモニターの電源を切った状態（スタンバイ／受像ランプが消えてるかまたは、赤に点灯している状態）で接続／取り外しをしてください。

モニターにスピーカーシステムを取り付ける

1 スピーカーシステムにスピーカーホルダーを付ける

スピーカーホルダーの向きは（R)、（L）で左右逆になります。

お知らせ

クッションについて

本体とスピーカーの間にすき間が発生する場合があります。お気になる方は、付属のクッションをスピーカーシステムの側面に貼り付けてください。

2 スピーカーシステムをモニターに取り付ける

図のように、スピーカーシステムを取り付けて、スピーカーシステムとモニターの取り付け位置を調節して、ネジを確実に締めて固定してください。
（R)、（L）とも同様に取り付けてください。

3 スピーカーシステムにスピーカー接続ケーブルを取り付ける

スピーカー接続ケーブルの接続方法（スピーカー側）
レバーを指で押したまま → 接続ケーブルを挿入する → 指を離す

4 モニターにスピーカー接続ケーブルを取り付ける

スピーカー接続ケーブルの接続方法（モニター側）
レバーを押し下げる → 接続ケーブルを挿入する → レバーを起こす

5 モニターに電源コードおよびAVCステーションとの接続ケーブルを接続する

専用接続ケーブルの大きいコネクターは、ゆるまないようにネジで止め、小さいコネクターは、奥までしっかり挿入してください。

⚠ 注意

スピーカー接続ケーブル以外の電源ケーブルや専用接続ケーブルは、必ずスタンドのクランプに確実に固定してください。モニターを左右に回転操作したとき、コネクターが抜けて発熱し火災の原因となったり、コネクター破損の原因となることがあります。

① **電源コードのコネクタープラグをモニター後面にある、電源コードコネクターに差し込む**
② **電源プラグをコンセントに差し込む**

●2つ穴タイプコンセントを使用の場合は付属の電源プラグアダプターをご使用ください。
電源プラグアダプターをご使用の場合は、電波妨害防止のため、必ずアース線を接続してください。アース線の接続は、必ず電源プラグを電源に接続する前に行ってください。また、アース接続をはずす場合は必ず電源プラグをコンセントからとりはずしてから行ってください。

6 モニターとAVCステーションを接続する

専用スピーカースタンド（別売り）を使用する

1 スピーカーシステムに専用台を取り付ける

⚠ 注意

スピーカーを移動のときは、スピーカー専用台を持って移動してください。スピーカーを持って持ち運ぶと、取り付け部破損の原因になる場合があり、またスピーカー専用台が落下してけがの原因となることがあります。

2 スピーカー接続ケーブルやモニターとの接続は 3 ～ 6 と同様に行ってください

⚠ 注意

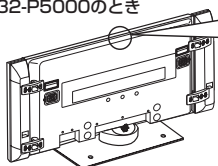
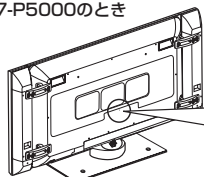
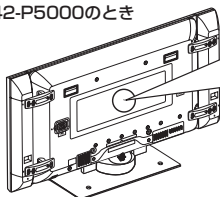
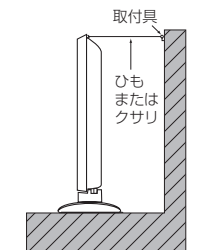
スピーカー接続ケーブルは、十分にたるませてください。

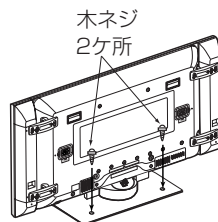
転倒防止について

スタンドご使用時の転倒防止について

本機は奥行きが小さいため、大きな地震等の際には倒れる場合があります。必ず転倒防止をおこなってください。

壁または柱などに固定する場合

1 図のようにセット後面上部に付いているフックにひもまたはクサリを通してください。

2 ひもまたはクサリ、および取付具については市販品をご利用いただき、確実に支持できる壁や柱などをお選びになり、しっかりと固定してください。

卓上などに固定する場合

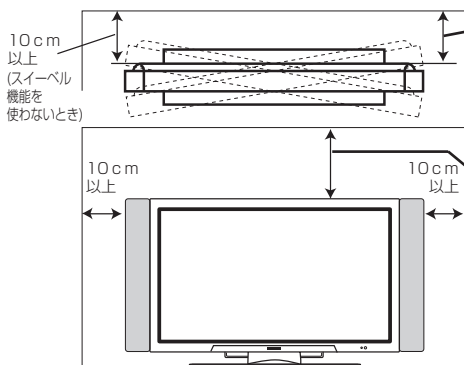
1 図のようにスタンド後部の固定用ネジ穴に木ネジなどで固定し、ご利用ください。（左右2ヶ所）

2 木ネジなどについては市販品をご利用いただき、しっかりと固定してください。

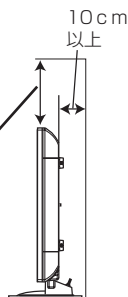
⚠ 注意

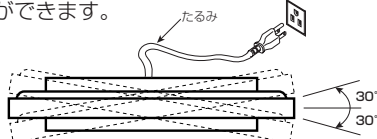
本機は安定したところに据え付けてください。また、転倒防止の処置を行ってください。
本機が転倒し、けがの原因となることがあります。

据え付けるときのご注意

モニターの設置について

●モニターの周囲は、放熱のための空間およびスイーベル時の空間を十分に確保してください。

スイーベル機能をご使用される場合は、回転範囲を確保できるよう、空間を十分にあけてください。目安は、
W32-P5000の場合　25cm
W37-P5000の場合　29cm
W42-P5000の場合　31cm
です。

上部につきましては放熱性を高めるため、30cm以上離すことをおすすめします。(最低でも10cm以上離してください。)

本体の向きを変える

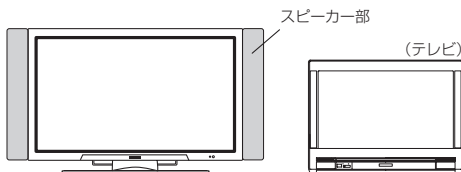
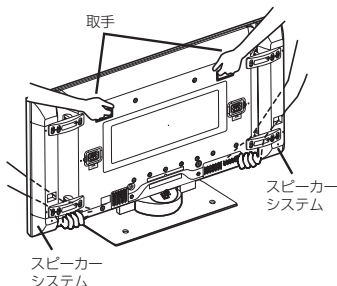
●本機はスイーベル機能を採用していますので、リモコンでモニター本体を左右に回転することができます。

⚠ 注意

回転中に手や顔、物を近づけない。
また、必要以上の力で急激に回転させないでください。(スタンドがすべって台からはずれてしまう恐れがあります。)

お守りください

電源コードおよび専用接続ケーブルを接続する際は、回転に支障のないようにたるみをもたせてください。17 19 21

設置をするとき

●ブラウン管タイプのテレビをスピーカー部に近づけると、ブラウン管テレビに色むらや画面揺れが発生することがありますので離して使用してください。

移動するとき

●この商品は重量物です。移動するときは、二人作業で持ち運びしてください。
●持ち運びは、取手と前面側から製品下側の両端部を持って製品を保持してください。スピーカーシステムを持って保持しないでください。取り付け部品が外れて、製品が落下してけがの原因となることがあります。

⚠ 注意

モニターを移動するときは、スピーカーシステムを持たないでください。

⚠ 警告

本機の据え付けには性能および安全性を維持するために必ず付属のスタンドや専用のオプションユニットをご使用ください。
付属のスタンドを取りはずし、別の取り付け強度が不足する部材を使用すると、転倒したり落下して火災・感電・けがの原因となります。

⚠ 注意

通風孔をふさがないように据え付けてください。
通風孔をふさぐと熱がこもり、故障や火災の原因となることがあります。

- ラック、箱のような狭いところに入れないでください。
- 周囲の壁などから10cm以上離してください（モニターを壁掛け設置する場合は除く）。但し、上部につきましては、30ｃｍ以上離して設置することをおすすめします。

⚠ 注意

電源プラグをすぐに抜くことができるようにモニターとAVCステーションを据え付けてください。

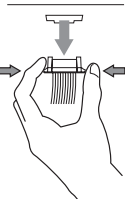
本機が異常や故障となったとき、電源プラグをコンセントに差し込んだままにしておくと火災・感電の原因となることがあります。

⚠ 注意

別売の専用壁掛ユニットを使用して壁に取り付ける場合は、危険ですから個人での取り付けは避け、販売店にお問い合わせの上、指定の取り付け工事業者に依頼してください。

メモ

モニターとスタンドの接続について

- モニターからスタンドを取り外す場合は、必ず専用ケーブルをモニター後面の専用スタンド接続端子から外してください。

コネクタ左右の
ロックをつまんで下に引き抜く

- モニターに再度スタンドを取り付ける場合は、専用接続ケーブルをモニター後面の専用スタンド接続端子に挿入してください。

カチッと音がするまで挿入する

- モニター部を壁掛けでご使用になる場合は、必ずモニターとスタンド間の専用接続ケーブルを外してご使用ください。

テレビの補修用性能部品の保有期間は、製造打切後8年です。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談ならびにご不明な点は、お買い上げの販売店または最寄りの「ご相談窓口」にお問い合わせください。

修理を依頼されるときは（出張修理）

AVCステーション取扱説明書の「故障かな？と思ったら」に従って調べていただき、なお異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。

保証書（別添）

保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめの上、販売店から受け取っていただき内容をよくお読みの後大切に保管してください。（保証書は、モニターとAVCステーションにそれぞれ1部同梱しています。）

保証対象装置：		
	モニター	W32-P5000 W37-P5000 W42-P5000
	AVCステーション	お手持ちの機種名
	スピーカーシステム	32SP5 37SP5 42SP5

保証期間…お買い上げ日から1年です。
但し、プラズマパネルの焼き付きは保証の対象外です。

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合には、ご希望により修理させていただきます。

修理料金のしくみ

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費などが含まれています。
＋	
部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材などを含む場合もあります。
＋	
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

ご連絡していただきたい内容

品　　名	日立プラズマテレビ
形　　名	**32形** モニター：W32-P5000 AVCステーション：お手持ちの機種名をご連絡ください。 スピーカーシステム：32SP5 **37形** モニター：W37-P5000 AVCステーション：お手持ちの機種名をご連絡ください。 スピーカーシステム：37SP5 **42形** モニター：W42-P5000 AVCステーション：お手持ちの機種名をご連絡ください。 スピーカーシステム：42SP5
お買い上げ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご住所	付近の目印なども合わせてお知らせください。
お名前	
電話番号	
訪問ご希望日	

ご購入店名、ご購入日を記入しておいてください。サービスを依頼されるときに便利です。

ご購入店名
電話（　　　）
ご購入年月日
年　　月　　日

長年ご使用のテレビの点検をぜひ!

熱、湿気、ホコリなどの影響や、使用度合いにより部品が劣化し、故障したり、時には安全を損なって事故につながることもあります。

愛情点検

このような症状はありませんか

- ●電源スイッチを入れても映像や音が出ない。
- ●上下、または左右の映像が欠けて映る。
- ●映像が時々、消えることがある。
- ●変なにおいがしたり、煙が出たりする。
- ●電源スイッチを切っても、映像や音が消えない。
- ●内部に水や異物が入った。

ご使用中止

故障や事故防止のため、スイッチを切り、コンセントから電源プラグをはずし必ず販売店にご相談ください。

ちょっとした心づかいでテレビの安全

日立家電品についてのご相談や修理は お買上げの販売店へ

なお、転居されたり、贈物でいただいたものの修理などで、
ご不明な点は下記窓口にご相談ください。

修理などアフターサービスに関するご相談は

TEL 0120-3121-68
FAX 0120-3121-87

商品情報やお取り扱いについてのご相談は

TEL 0120-3121-11
FAX 0120-3121-34

＊フリーダイヤルされますと、お客様の地域を担当するセンターへおつなぎします。

一般ご相談窓口 家電品についてのご意見やご要望は各地区の**お客様相談センター**へ

担当地域	電話番号	所　在　地
北海道地区	０１１－８３３－５０８８	札幌市白石区東札幌２条４－１－１０
東北地区	０２２－２３２－５０８８	仙台市宮城野区扇町1－1－45
関東・甲信越地区	０３－３８３４－８５８８	台東区東上野２－７－５（日立家電上野ビル）
中部地区	０５２－７９５－５０８８	名古屋市守山区川宮町５５（日立家電守山ビル）
関西地区	０７８－４３１－５０８８	神戸市東灘区甲南町１－３－８
中国地区	０８２－２３１－５０８８	広島市西区観音新町１－７－１７
四国地区	０８７７－４７－１０８８	坂出市林田町４２８５－１４３
九州・沖縄地区	０９２－２８１－５０８８	福岡市博多区店屋町７－１８（博多渡辺ビル）

●ご相談窓口の名称、所在地等は変更になることがありますのでご了承ください。

仕　様

形名	プラズマテレビモニター	W32-P5000	W37-P5000	W42-P5000
パネル	パネル	32形（ALIS方式）プラズマディスプレイパネル(16：9)	37形（ALIS方式）プラズマディスプレイパネル(16：9)	42形（ALIS方式）プラズマディスプレイパネル(16：9)
	表示ドット数	水平852×垂直1024	水平1024×垂直1024	
表示寸法		幅71.6×高さ39.9/対角82.0(cm)	幅81.4×高さ44.5/対角92.0(cm)	幅92.2×高さ52.2/対角106.0(cm)
音声実用最大出力		24W（総合）（JEITA）		
スピーカー		6.5cm×9cmコーン型ウーファー…2個 2.2cmバランスドーム型ツィーター…2個	8cmコーン型ウーファー…4個、2.5cmドーム型ツィーター…2個	
電　源		AC100V 50/60Hz共用		
動作保証温度		5～35℃		
消費電力		202W	270W	300W
		待機時0.6W		
端　子		サブウーハー出力端子……………1個　スピーカー端子(右)(左)…………1個 専用モニター入力端子……………1個		
外形寸法	モニター	幅83.0×高さ50.6×奥行9.2(cm)	幅94.0×高さ57.3×奥行9.9(cm)	幅103.0×高さ63.6×奥行9.1(cm)
	モニター・スピーカーシステム・スタンド付	幅97.4×高さ58.3×奥行25.8(cm)	幅114.2×高さ65.1×奥行25.8(cm)	幅123.3×高さ71.3×奥行30.0(cm)
質量	モニター	22.5kg	27.0kg	33.1kg
	モニター・スピーカーシステム・スタンド付	29.2kg	36.0kg	43.1kg
付　属　品		12を参照してください。		

●本仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

●この機器を使用できるのは日本国内のみで、外国では放送方式、電源電圧が異なりますので使用できません。
This television set is designed for use in Japan only and can not be used in any other country.

●本製品は「高調波ガイドライン適合品」です。

株式会社 日立製作所

〒244-0817　神奈川県横浜市戸塚区吉田町292番地

QR58111Ⓐ

Printed in Japan TM-Y(S)